

令和5年度 市長のタウンミーティング実施報告書（下中島地区）

会場名	下中島公民館		日時	11月22日(水) 19時00分 ～20時45分		
市側の出席者	市長 村椿 晃 企画部長、総務部長、産業建設部長、民生部長、教育委員会事務局長、情報広報課長、地域協働課協働推進係長、情報広報課 広報広聴係長(司会)					
参加者数	22名	YOUTUBE 動画	視聴者数(最高時点)	9人	チャット(投稿数)	0件



1.市長講話

市長 村椿 晃「自治基本条例・各地域におけるコミュニティセンターについて」
(20分程度 資料に基づき講話)

2.事前質問(地区から事前にいただいた提言・提案等について)

①魚津水族館、ミラージュランドの交差点付近でよく躊躇している車を見かけます。富山方面魚津方面ともに左折へのアプローチの案内看板を、早めに気づけるような場所、大ききで設置してあれば、来場者も通過する車も安全になる。魚津方面からの強引な右折侵入、富山方面から駐車場へ入るところへ無理に右折する車もありますから。迷った末だと思われま。

(村椿市長)

道路構造そのものを変えることは難しいので、案内のあり方を検討する必要があります。せっかくの施設ですので、わかりやすい案内表示についてしっかり取り組んでいきたいと思ひます。

②早月川のトンネル補強工事等に伴う、農地転用禁止の一部除外について

数年間実施した、早月川の幹線用水路のトンネル崩落対策として、裏込注入工事やトンネル補強工事により、『工事期間及び完成後8年間、早月川の水を利用している水田の農地転用はできない』とのことですが、星の杜小学校下の下中島地区及び上中島地区がその規制対象地域となりま

す。過去にもそうでしたが、規制解除前に再び早月川の用水確保のための工事が始まり、工事期間と工事完了後8年間は農地転用ができなくなります。早月川の用水確保に関する工事を繰り返すことになれば、永遠に農地転用ができないことになり、新たな住宅地造成や会社を誘致しても農地転用許可が下りません。農業用水の確保と地域の発展・活性化の両方を実現するには、早月川の水を利用の水田面積の一定の割合・一定の面積を農地転用できるように市が強く国に働きかけ、下中島・上中島両地区の発展や活性化を是非実現して欲しい。

(産業建設部長)

農業用施設を国の補助金を使って直すということになりますと、農業を振興をしたいので、この施設を直してくださいと、簡単に言えば、そういうお願いをして国から補助金がかかるため、その農地を、宅地や企業誘致に、農地転用するとすると、その補助金を返してもらおう、といった話になるのが現状です。人口減少対策のためには、企業も誘致したいですし、宅地造成もしたいのですが、農地を守っていかなければならないという側面もあります。星の杜小学校の児童の状況を見ていますと、年々減少しておりますので、これをどのようにしていくかということはいさしかり私どもとしても考えて取り組んでいきたいというふうに思います。

(村椿市長)

やはり、当面一番気になっていることは、星の杜小学校の生徒さんが減っていくことです。若い世代が家を建てたいと思っていて、農地を宅造していくことは、いま説明したように、国の補助金の関係があって、すぐには難しいですが、そういった規制を一部除外をしてやる方法もありますので、できるだけ早く取り組んでいきたいと考えています。

③国道8号線江口交差点の立体化について

国道8号線の江口交差点以東は4車線化になっておらず、県選出の国会議員は全線4車線化に力を注いでいると聞いています。国道8号線江口交差点と旧8号線(一般県道富山・滑川・魚津線)が平面交差して信号機が設置されておりますが、朝夕ラッシュ時には渋滞がひどい状態であります。旧国道と新国道は、交通量の多い道路であることから、本来なら立体交差になっているのが通常と思います。なぜ、平面交差になっているのでしょうか。江口交差点の渋滞を解消するため、立体交差化を進めて欲しい。

(村椿市長)

国道8号線あるいはその幹線国道の役割といった考え方からすれば、質問をされている方の考え方は正論だと思います。ただ現実を見てもらうと、国道と既存の県道などは平面が多いと思います。立体にするには、その用地の取得、期間を含めて、大きなプロジェクトになります。また、立体にするには、両側に張り付いている大型店などを、すべて移転していただくといったような話が出てくると思います。ですから、これを実現するときは、まず地元の理解、ご協力が得られないと難しいと考えます。

④戦没者の慰霊碑、モニュメントの設置(新庁舎公園)

各地区に建立されている忠魂碑は、倒壊の危険性が生じています。新庁舎の公園にモニュメントの設置を要望します。

(村椿市長)

忠魂碑については、振興会さんの方からも、老朽化に伴う危険度が増しており、また維持をするには関係者が高齢化をしていって、地域では難しいとのお声はいただいています。

先週、沖縄の糸満市の平和記念公園に訪れたところです。今、世界でいろいろな紛争は、毎日のように報道されていますが、平和がどれだけ大切なものか、ということ改めて実感しました。

市役所の新庁舎整備プランと合わせて、慰霊碑を建立することは、別問題として考えたいと思います。また遺族会の皆さんともお話をし、県内の自治体の取り組みを勉強しながら、検討してまいります。

3.意見交換(地区からの提言・提案等について)

○ 市や県の文化祭のお客さんが少ない。詩吟や盆踊りなど古くからの伝統が若い人に受け継がれていくのが疑問。ヒップホップなどと伝統芸能を融合したらどうか。

(村椿市長)

伝統あるものと新しいものの融合といえば、よっしゃこい蝶六がありますが、そのような取り組みが進んでいくことを期待します。

○ 少子化問題にどう対応していくのか。

(村椿市長)

まずは子育て支援ということで、若い方々の経済的負担の軽減、次に、住宅支援です。そして働く場の創出、大きくはこの三つです。これ以前に、結婚ということが重要で、県や市でも出会いの場を作るなど、きっかけ作りをやっていきます。魚津市は、子育て支援という面では、県内の自治体でもおそらくトップクラスの支援制度を設けてやっていると思っています。

すぐに効果が出るかどうかはわかりません。ただ、今年から始めている保育園の無償化に出来るように、魚津市は、子どものことを真剣に考えていることをお伝えしていきたいです。

○ 未婚率と学校教育に係る関係性はあると思うか。

(村椿市長)

直接関係あるかどうかは別ですが、国の調査では、高学歴化と結婚年齢が遅くなるということは明らかに正比例しています。同時に結婚率も下がっています。皆さん、自己実現をするために学んで、自分でその仕事などを選択をしていくという世界が広がっていくので、ある程度そのような傾向はあると見ています。

○ LGBTQ など性教育をする際、これまでの日本の歴史的背景を踏まえ、大人の偏った考えを子どもに与えるのはどうか、疑問に思う。

(村椿市長)

LGBTの話は、それがいいとか悪いとかという話は全くなく、いろんな人がいるということです。どういう状態が正しいとか正しくないとかみたいなことではなくて、いろんな状態の人のことをまずは認めるということが出発点だと思います。成長段階に応じて、どういうふうな伝え方をするか、バランスを取りながら考えていく必要があると思います。

○ コミュニティセンター化すると自治会の役員の負担が増えるのではないか。

(村椿市長)

すべて自分たちでやる、ということになると負担が大きくなるが、ニーズがでてきたときに、実行するのはコミュニティセンターの役員に限るということはないです。むしろ、次の担い手、人を巻き込むことがセットです。特定の役員が何かするという概念そのものが、これまでの世界です。そこを壊して回す、変えていくということが、本当のねらいであります。ですから、強制ではありませんといった話をして、皆さんとの合意形成ができたところからやっていきましょうという進め方を考えています。スタートするのにもエネルギーをかけていろんな話をして巻き込んでいくことが大事になってきます。それは市役所も一緒にやります。